

第1回情報交換会が開催されました

2023年6月23日(金)5限(16:30-18:00)、1257 講義室にて、FD 委員会主催「第1回情報交換会」が対面+Zoom のハイブリッド形式で開催されました。この便りでは、オンラインまたは対面で参加いただいた教職員の皆様の当日の様子と、いただいた感想をご紹介します。

テーマ：「生成系 AI を体験し、教育・研究への活用を考える」

内容：

第1部(20分)：生成系 AI とはどのようなものか、簡潔なご紹介

第2部(60分)：情報交換会

第3部(10分)：まとめ

参加者数：33名(対面18名、オンライン15名)



開催の趣旨は、生成 AI という新しく未知のオンライン技術に対して、「どのようなものか、何が出来て何が出来ないのか、授業や業務でどのように使えるのか」といったことをまずは利用者サイドから体験し、生成 AI に関する問題意識を教職員の皆様と共有することです。開催フォーマットとして、令和4年度 FD 活動からの新しい試みとして導入されている「情報交換会」を採用いたしました。オンラインと会場における意見交換を促進するためには、生成 AI の典型的な利用方法を知っておく必要があるという観点から、第1部では「プロンプトエンジニアリング」という生成 AI との主要な対話テンプレートを紹介し、いかにして有益な情報を引き出すかについて実例を交えてデモンストレーションを行いました。

第2部では会場参加の皆様は2つのグループに分かれ、ChatGPT、Google Bard といった生成 AI サービスを適宜利用しながら情報交換を行い、オンライン参加の皆様は主に Zoom のチャット欄でご意見・ご質問をいただくという方式をとりました。以下、情報交換会後にいただいた皆様からのアンケート・ご意見をもとに、会の様子を振り返ります。

情報交換会の概要(参加者アンケート結果の抜粋)

- 第1部のデモンストレーションでは活用事例の紹介があり、有益だった。
- 生成 AI をこれから利用しようとする際、マイナス面を把握しながら業務や授業・研究へ活用可能なプラスの面があると感じたので、上手な付き合い方を考えていく必要がある。
- ChatGPT を使った不正レポート対策として、「参考文献リストを提出させる」「口頭でも内容を説明させる」「図表も提出させる」「授業内で作成させる」「対面の筆記試験で小論文を書かせる」「ChatGPT が作成した文章と自分の文章を比較させる」などの対処方法を参加者からの意見として知ることができた。
- もう少し参加者が多ければ良かった。実際に ChatGPT を操作して経験を共有したり助言をしあったりする場があれば良かった。

- 集音マイクの関係で会場参加者の意見をオンライン参加者が聞き取ることが難しかった。また、オンライン参加者に対しては、会場との意見交換の他、ブレイクアウトセッションを用いて意見交換する場を設けた方が良いのではないかと。

まとめと補足情報

生成 AI のファーストインプレッションを持っていただき、今後の授業・業務活動への利用可能性を考える場として、この情報交換会は当初の目的を果たせたのではないかと思います。当日会場にご参加いただいた FD 委員の先生方には、各グループでの情報交換活動を積極的にリードして下さいました。御礼を申し上げます。一方で、オンライン参加の皆様には会場との音声伝達の不備やオンライン参加者間での情報交換の仕組みの不在といったご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。今後のハイブリッド形式での情報交換会の運営における FD 委員会の課題として、取り組んでまいりたいと思います。

